

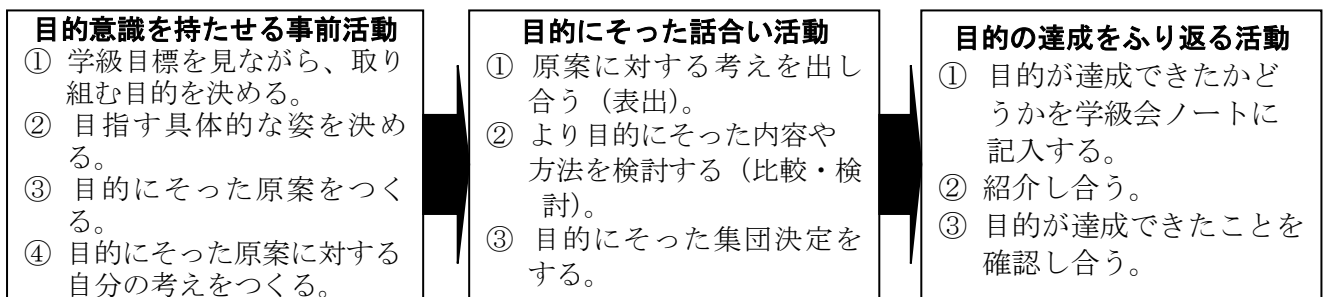
学級づくりに自らかかわる子どもを育てる学級活動

～目的意識を持たせる事前活動・目的にそった話し合い活動・目的の達成をふり返る活動を通して～

要 約：

現代の社会にあって、自分に自信が持てず、人間関係に不安を感じている、好ましい人間関係を築けないなど社会性の育成が不十分な子ども達の姿は、大きな社会問題となっている。PISA調査を実施しているOECDは、新たな能力の概念となる三つの能力、キー・コンピテンシーを定義した。その中の一つが、多様な集団における人間関係形成能力であり、他者との良好な関係を築いたり、集団の中で目標を共有し、協力して成し遂げたりする能力の必要性である。そこで、本学級の子ども達にアンケートを実施したところ、「学級目標を意識して活動できていない」、「学級をよりよくするための言動ができていない」など、自ら学級づくりにかかわろうとしていない姿が見えてきた。

そこで、研究主題を「学級づくりに自らかかわる子どもを育てる学級活動」と設定した。そして、集団活動の楽しさを実感し、クラスの仲間を認め合いながらよりよい学級をつくっていく子どもの姿を目指して指導にあたることにした。研究テーマ達成のために、事前・事中・事後の各段階で目的意識を持たせ、何を何のために行うのかを明確にした活動を重視した（下図の通り）。



この構想をもとに、第5学年で、10月に「1年生を喜ばせよう集会をしよう」、12月に「きずなアップ集会をしよう」の2つの題材で実践を試みた。

成 果：

- 目的意識を持たせる事前活動、目的にそった話し合い活動、目的の達成をふり返る活動の3つの活動を行ったことで、学級づくりに自らかかわる子どもが育った。具体的には以下のような姿である。
 - ・ 目的意識を持たせる事前活動では、学級目標を意識しながら話し合いのめあてをつくることや、話し合いの目的にそって原案をつくることのできる姿、話し合いの目的にそって自分の意見や考えをつくることのできる姿が見られた。
 - ・ 目的にそった話し合い活動では、自分の考えに自信を持って発表することのできる姿や話し合いのめあてを意識した発言を積極的にすることのできる姿、目的にそった集団決定をすることのできる姿が見られた。
 - ・ 目的の達成をふり返る活動では、自分がこれからも学級づくりにかかわろうとする姿や改善策を見つけることのできる姿、成功したことを互いに賞賛し合うことのできる姿が見られた。
 - ・ 学級活動コーナーで目的が明確になる工夫をしたことは、子ども達一人ひとりが目的意識を持ち主体的な活動をすることにつながった。

課 題：

- さらに学級づくりに自らかかわる子どもを育てるための日常活動の充実と学級活動との関連づけ
- 時間内に子ども達が折り合いをつけながら集団決定していくための話し合い活動の積み上げ

キーワード：学級づくり 自らかかわる 目的意識

1 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請と特別活動の本質から

現代の社会にあって、自分に自信が持てず、人間関係に不安を感じている、好ましい人間関係を築けないなど社会性の育成が不十分な子ども達の姿は、大きな社会問題となっている。PISA調査を実施しているOECDは、新たな能力の概念となる三つの能力、キー・コンピテンシーを定義した。その中の一つが、多様な集団における人間関係形成能力であり、他者との良好な関係を築いたり、集団の中で目標を共有し、協力して成し遂げたりする能力の必要性である。また、学習指導要領解説特別活動編においては、目標に「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことが明記され、集団の一員としての自覚をもって生活向上のために自ら進んで参画しようとする社会性の基盤を育成することが目指されている。そこで、学級を単位として行われる学級活動を中心に、学級づくりに自らかかわる子どもを育てる本研究は、大変意義深いものであると考える。

(2) 子どもの実態から

本学級の子ども達22名に、7月にアンケートを実施した。この結果から、「学級目標を意識して活動できていない」、「学級をよりよくするための言動ができていない」、つまり、自ら学級づくりにかかわろうとしていない姿が見えてきた。これは、学級活動の中で学級目標を意識させる手だてが少なかったことや、ふり返り活動が十分でなかったことに起因すると考える

【図1】。

本研究では、このような子ども達の実態を受け、学級づくりに自らかかわる子どもを育成したいと考えた。

・学級目標を意識して生活できている。		
◎ 7人	○ 10人	△ 5人
・学級をよりよくするための言動ができていない。		
◎ 4人	○ 5人	△ 13人
・めあてを意識して活動できた。		
◎ 2人	○ 4人	△ 16人
◎…とてもそう思う ○…そう思う △…あまりそう思わない×…全くそう思わない 対象：第5学年2組22名 平成25年7月実施		

【図1：7月の話し合い活動後の子どもの実態】

(3) これまでの指導の反省から

これまでの学級活動の指導をふり返ると、以下の3点が大きな課題である。

- ・話し合い活動を行う際に、子ども達に学級目標を意識させる手だてが不足していたため、議題選定や原案を作成する時に目的意識がなく、話し合いへの意欲を高めることができなかったこと。
- ・話し合い活動の場を何度か設けたが、何のための話し合い活動なのかが曖昧で、目的にそった集団決定ができていないこと。
- ・実践後のふり返りの場がなかったため、自己や学級の高まりを実感できていなかったことである。

これらの課題解決のためには、事前・事中・事後の各段階で、目指す姿を意識した活動をさせる必要がある。そのために、一人ひとりが自分の考えをしっかりとつくり、話し合いの目的を理解しておけば、話し合いへの意欲が高まり自己や学級の高まりを実感できるのではないかと考えた。事前・事中・事後のそれぞれの段階で目的意識を明確にすることは、学級づくりに自らかかわる子どもを育てる上で効果があると考えられる。

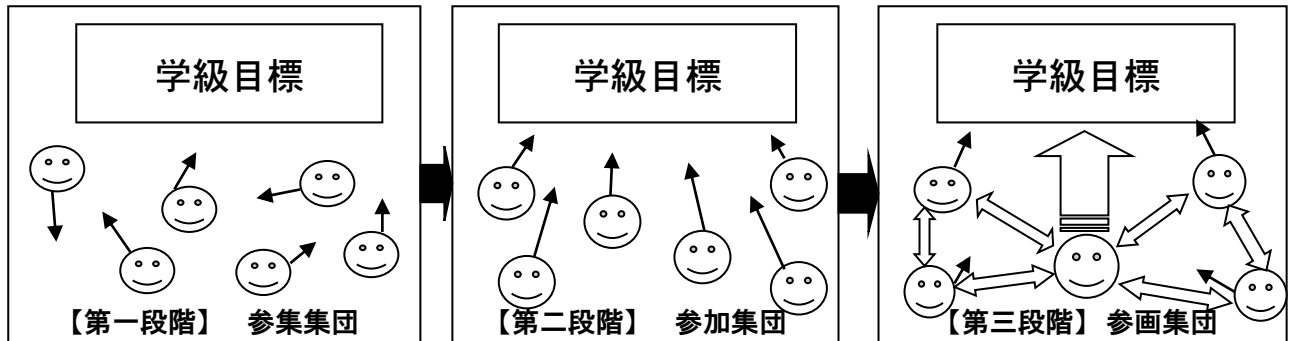
2 主題の意味

(1) 研究主題「学級づくりに自らかかわる子ども」について

① 「学級づくり」とは

子どもが、今の学級の姿と学級目標を比較しながら、生活上の課題を見出し、学級目標の達成を目指して、自分の役割を意識し実践・評価していくことである。

学級は一つの集団であり、集団には段階があると考え【図2】。



【図2：学級集団の高まり】

【第一段階・参集集団】

子どもは、学級を単位とする活動の中で友達とかかわり学んでいく。しかし、クラス替えをした段階では、たまたま同じ学級になった者同士という感覚で、友達のことを目に向けてることなく生活を送ってしまう。これでは、学級で同じ目標を共有できておらず、主体的な学級活動につながることは考えにくい。

【第二段階・参加集団】

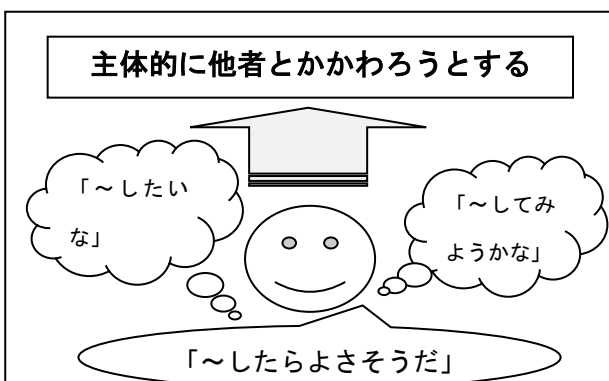
そこで、学校生活にはその集団を同じ方向に導く「学級目標」が必要であると考え。自分達の目指す姿やどんな集団になりたいかを打ち出した目標である。この学級目標を全員が共有し意識することで、それぞれが同じ目標に向かって発言・行動するようになる。

【第三段階・参画集団】

子ども達が学級目標を意識し始めると、主体的な行動をとるようになる。たとえ失敗しても、同じ課題にみんな挑戦することを通して、互いの意見や考えも尊重できるようになる。そして、子ども達はよさを認め合いながら学級の友達を「仲間」として意識するようになる。こうして、学級目標に向かって発言や行動をしていくようになる。

② 「自らかかわるとは」

友達と互いにどうしたらよいかを話し合ったり、知恵を出し合ったりしながら、主体的な発言や行動をしたりすることである。



人は誰しもが、行動を起こすときに「～したいな」「～してみようかな」などという、目には見えない内的心情がはたらく。この心情がはたらくことで、友達に呼びかけたり、話したり、誘ったりという主体的な発言や行動となって外部に表われていく【図3】。

【図3：「自らかかわる」とは】

③ 「学級づくりに自らかかわる子ども」とは

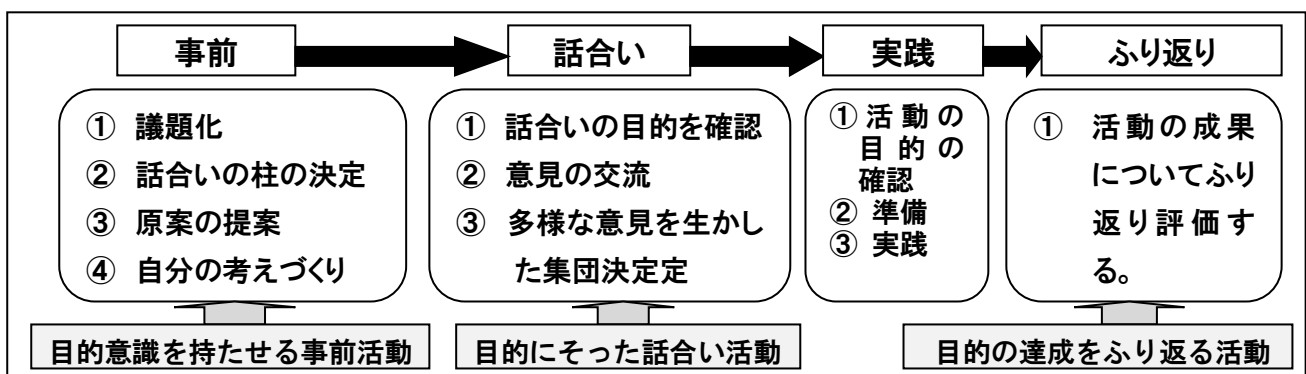
友達と一緒に学級集団を学級目標に近づけたいという願いをもとに、自分の考えをつくったり、主体的な発言や行動をしたりする子どもである。

具体体には次のような資質・能力を身に付けた子どもである。

関心・意欲・態度	学級目標に近づけるための課題を見つけ、主体的に課題を解決していこうとする子ども。
思考・判断・実践	目的を明確にして、課題を解決するためのよりよい方法について友達と話し合ったり、自分の役割を自覚し、責任を遂行したりする子ども。
知識・理解	学級目標に近づける目的を持って学級集団としての意見をまとめる効率的な話し合い活動の進め方や準備や実践の仕方を理解している子ども。

(2) 副主題「目的意識を持たせる事前活動・目的にそった話し合い活動・目的の達成をふり返る活動を通して」について

この3つの活動は、下記の場面に位置づける【図4】。



【図4：3つの活動の位置づけ】

① 「目的意識を持たせる事前活動」とは

学級目標をもとに、題材に取り組む目的や自分達の目指す姿を明らかにする活動である。

目的	内容・方法
題材に取り組む目的や自分達の目指す姿を明らかにする。	<ul style="list-style-type: none"> ①学級目標を見ながら、取り組む目的を決める。 ②目指す具体的な姿を決める。 ③目的にそった原案をつくる。 ④目的にそった原案に対する自分の考えをつくる。

② 「目的にそった話し合い活動」とは

課題を解決するための原案を目的性の視点から検討し、より目的にそった集団決定をする活動である。

目的	内容・方法
目的にそって話し合い、目的にそった活動内容や方法を集団決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ①原案に対する考えを出し合う（表出）。 ②より目的にそった内容や方法を検討する（比較・検討）。 ③目的にそった集団決定をする。

③ 「目的の達成を繰り返す活動」とは

実践内容や実践に至るまでの過程を繰り返し、目的が達成できたことを確認し合う活動である。

目的	内容・方法
実践内容や実践に至るまでの過程を繰り返し、目的が達成できたことを確認し合う。	①目的が達成できたかどうかを学級会ノートに記入する。 ②紹介し合う。 ③目的が達成できたことを確認し合う。

3 研究の目標

学級づくりに自らかかわる子どもを育てるための、目的意識を持たせる事前活動・目的にそった話し合い活動・目的の達成を繰り返す活動の在り方について究明する。

4 研究の仮説

学級活動において、目的意識をもたせる事前活動・目的にそった話し合い活動・目的の達成の繰り返す活動を行えば、「～したいな。」「～してみようかな。」という内面の心情を高め、学級づくりに自らかかわる子どもを育てることができるだろう。

5 研究の具体的構想

目的意識を持たせる事前活動・目的にそった話し合い活動・目的の達成を繰り返す活動を行うとともに、下記の2点を工夫する。

学級目標からおろした意図的・計画的な題材の設定

- ①学級目標
- ②学期の重点目標
- ③題材の配列

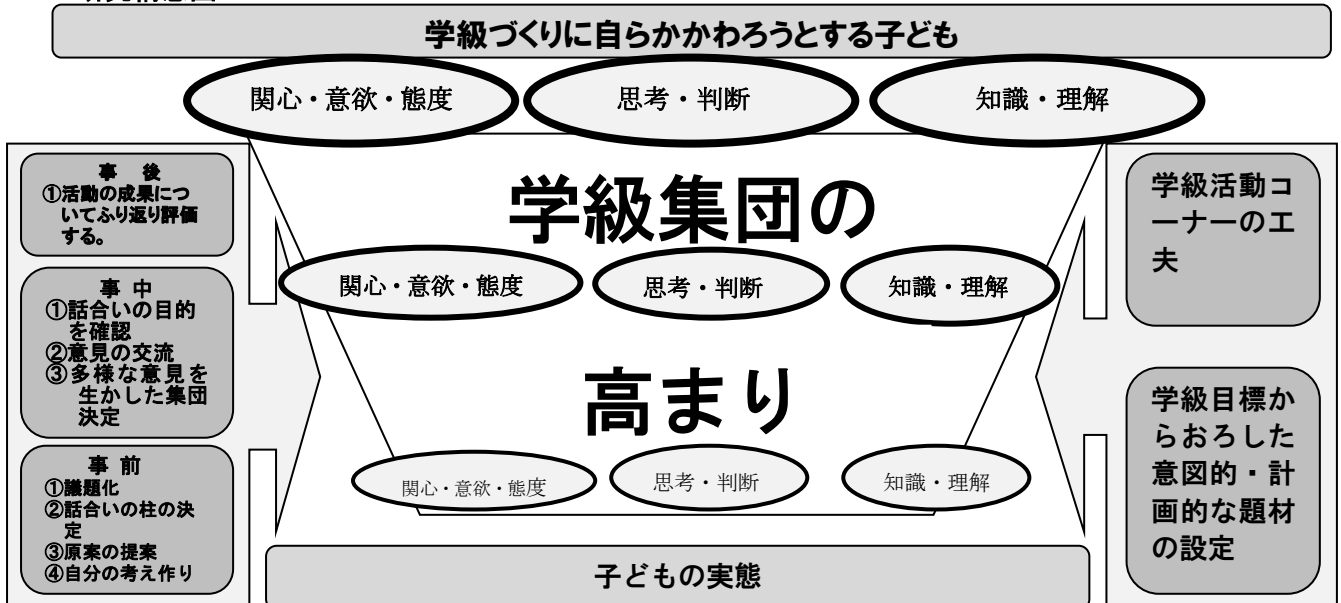
学級活動コーナーの工夫

- ①各題材の目的が明確になる掲示の工夫
- ②各題材の取組を繰り返すことができる掲示の工夫

6 研究の計画

月	研究内容	月	研究内容
5月	理論研究	10月	実証1及びデータ収集・分析
6月	理論研究・教材研究	11月	仮説の見直し・実証データ分析
7月	実態調査の結果分析	12月	実証2及びデータ分析のまとめ
8月	指導案作成・審議	1月	研究のまとめ
9月	指導案作成・審議	2月	研究報告

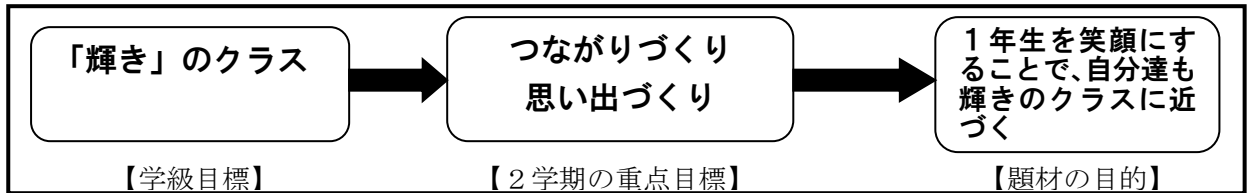
7 研究構想図



8 研究の実際

【実践事例1】 第5学年 題材名 「1年生を喜ばせよう集会をしよう」 (10月実践)

(1) 本題材の目的



(2) 主な指導内容と方法及び活動の実際

① 目的意識を持たせる事前活動

- ・学級目標を見ながら、この題材に取り組む目的は「1年生全員を笑顔にすることで、自分達も輝きのクラスに近づく」ことであると確認した。
- ・具体的な自分達の姿「5年2組も全員が笑顔になる」をイメージさせ、全員で共通理解した。
- ・種目は何がいいかについて1年生にアンケートをとり、結果を集計し、「サッカー」「けいどろ」の原案をつくった【資料1】。
- ・昼休みに1年生をよんで、2種目を試しにやって、うまくいったところと問題点をもとに自分の考えをつくった【写真1】【資料2】。
- ・問題点についてどうしたら上手くいくかの改善策を考えさせ、自分の考えを持たせた。



【資料1：サッカーの原案】

【写真1：試しの活動】

【資料2：K児の自分の考え】

- 試しの活動をしたことで、目的と照らし合わせて自分の考えをつくることのできた。
- 成功した時の自分達の具体的な姿をイメージさせる手立てが足りなかった。

② 目的にそった話し合い活動（サッカーのルールについて話し合った場面の一部）

- C1：原案にキーパーは5年生か1年生でもいいとありますが、ぼくは5年生がキーパーをしたほうがいいと思います。理由は、1年生がキーパーの時、5年生がけると止めきれないと思うからです。
- C2：C1さんの考えもいいと思うけど、今回の目的は「1年生全員を笑顔にすること」なので、私は1年生にもキーパーをさせたほうが、1年生が楽しめると思います。
- C3：C2さんの考えに賛成です。私は1年生がキーパーの時は、力が強い5年生がシュートするのではなく、1年生にシュートさせたら1年生がもっと楽しめると思います。
- C4：では、サッカーのルールは、1年生にもキーパーをさせて1年生がキーパーの時は、5年生がシュートするのではなく、1年生にシュートさせるということに決めます。

- 今まで自分の考えを持たずに話し合いに参加していた子どもも、自分の考えをしっかりとくらしらせたことで積極的に話し合いに参加していた【資料3】。
- 1年生を喜ばせたいという目的は意識できていたが、自分達の学級の高まりまでは意識した発言ができていない。

自分の考えを言ったのがうまくいったなと思います。理由は
学級会の前に自分の意見を考えて作っていたからだと
思います。だから、すくりに言ったのかなと思います。

【資料3：K児の学級会後の感想】

③ 実践の段階

- ・ 今回の集会の目的は、「1年生全員を笑顔すること」、そして「5年2組が輝きのクラスに近づくこと」であることを再確認し、準備や実践活動を行った。
- ・ 1年生を喜ばせようという目的を意識して、1年生に優しく接しながら活動した【写真2】。
- ・ 集会の終わりに、1年生からの感想をもらい、自分達の取組への価値付けをした。また、1年生の担任の先生からも「1年生を笑顔にしてくれたのは、5年生全員の協力のおかげだよ。」という感想をもらい、今回の取組が成功したことを実感した。



- 「1年生を喜ばせよう集会」の実践では、自分達で役割分担をしながら、集会を進めていくことができた。集会の中では、自分達が話し合っただけで決めたルールに従い、1年生を喜ばせることができた。その結果、自分達でやり遂げた達成感を味わうことができた。
- 子どもから「5年2組も輝きのクラスに近づいた」という感想を聞くことができなかった。

【写真2：目的を意識して優しく1年生に接する子ども】

④ 目的の達成をふり返る活動

- ・ 集会後、1年生に「楽しかった人」と聞いたところ、全員の手が挙がった。そのことに触れ、「なぜ今回の集会が成功したのか。」と尋ね、学級会ノートにふり返りを書かせた。
- ・ 題材選定から学級会、実践までの一連の活動の価値付けを行い、実践後の感想を紹介し合った。

- ふり返りの時間を十分にとったため、自分達の活動のよかった点や改善すべき点を考え次の活動へつなぐことができた。
- 「楽しかった」や「1年生がみんな笑顔だった」、「また2回目もやりたい」という感想は多く見られたが、学級目標の高まりまでは至っていない【資料4】。

サッカーもけいどろも終わって、原菜係の人が、「1年生に
楽しかったかどうかを聞いたら全員が手を挙げたの
でうれしかったです。1年生がみんな笑顔だったので
成功だ」と思いました。
また1年生を喜ばせよう集会をしたいと思いました。

【資料4：実践後の子どもの感想】

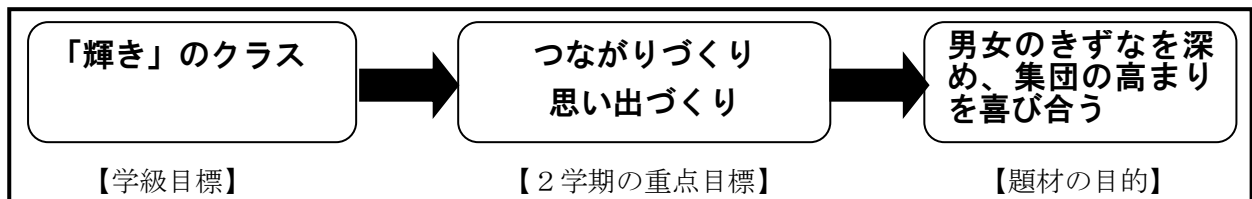
(3) 実践1の考察

事前の段階では、1年生を全員笑顔にしようという目的は全員が共通理解できていた。そのため、話し合いから実践までを目的意識を持ち、主体的に活動した。しかし、目的意識を持つことができたものの、この集会を通して自分達はどのようなればいいのか具体的な姿をイメージする手だてがなかったため、友達と一緒に学級集団を学級目標に近づけたいという願いをもとに、自分の考えをつくり主体的な発言や行動をしている子どもは数名しかいなかった。

【実践事例2】 第5学年 題材名 「きずなアップ集会をしよう」 (12月実践)

実践1の課題を受け、学級目標とつなげた取組を行った。

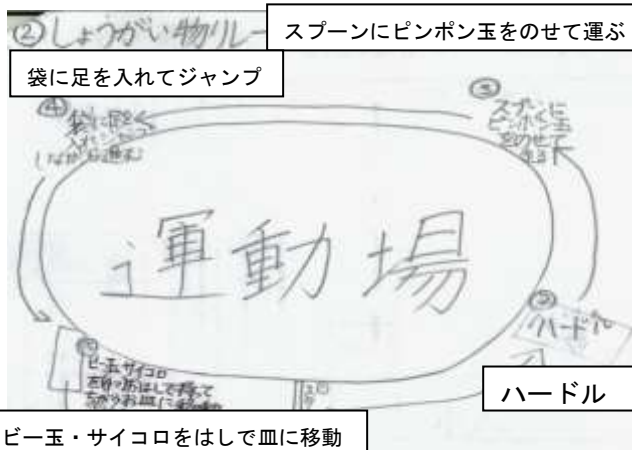
(1) 本題材の目的



(2) 主な指導内容と方法及び活動の実際

① 目的意識を持たせる事前活動

- ・教師が、学級目標を見ながら、「2学期は様々な行事やクラスでの活動を通して輝きのクラスに近づいたか。」と尋ねた。子ども達からは「男女のきずながまだ深まっていないから、輝きのクラスには近づいていない。」との意見があり、2学期最後の思い出づくりとして、題材を「きずなアップ集会をしよう」とした。
- ・きずなアップ集会を通して男女の会話が増えたり、男女が協力して準備や片付けしたりすれば、5年2組のきずなが深まるという共通理解をした。
- ・男女が一緒にチームにして、目的を意識した原案づくりをした【資料5】。
- ・目的にそった原案に対する自分の考えと自分がこの集会で頑張ることを書いた。



○ 今回は集会が成功した時の自分達の具体的な姿をイメージさせていたため、原案を作成する段階から、男女が協力してアンケート結果をまとめる姿があった。

○ きずなアップ集会に向けて自分が頑張ることを書かせたところ、学級目標を意識した記述が見られた【資料6】。

【資料5：障害物リレーの原案の一部】

⑥ 12月20日の集会に向けて、自分はどんなことをどのようにがんばりたいと思いますか。

今までよりもっと輝に近づけて男女が協力して仲良くなり今後も続けられるような集会をしたいです。

【資料6：学級目標を意識して活動しようとする子どもの記述】

② 目的にそった話し合い活動（障害物リレーの種目について話合った内容の一部）

- C1：障害物リレーの種目は、ハードル、ピンポン玉運び、袋をはいてジャンプ、ビー玉掴みで全部一人でする種目です。だから、男女と一緒にできる種目を入れたらいいと思います。
- C2：C1さんの意見と同じです。今回の話し合いのめあては「男女が協力して取り組めるルールを決めよう」なので、スタートから「二人三脚」を入れると男女が協力できると思います。
- C3：私はC2さんの考えに賛成です。「二人三脚」だと男女が協力して楽しめるので「輝き」のクラスに近づけるとと思います。
- C4：では、スタートから二人三脚を入れるというルールに変えたいと思います。

○ 「今回のめあては〇〇だから～です。すると、5年2組がもっと輝きのクラスになると思います。」と学級目標を意識した発言が見られ、自ら学級づくりにかかわろうとする子どもが出てきた。



○ これまで意見を言わなかった子どもも、自分の意見をしっかりと書かせていたため、進んで手を挙げ、自分の考えを言う姿が見られた【写真3】。

【写真3：進んで挙手をする子ども】

③ 実践の段階

・障害物リレーやおぼけやしきでは、自分達が改良したルールや種目で男女仲良く実践をした。

【写真4】。

・目的を最後まで意識して、男女協力して片付けをしていた【写真5】。



【写真4：活動中の姿】



【写真5：活動後の姿】

○ 準備から片付けまで必ず男女がペアで準備できるように考えていたことで、目的にそった実践ができた。

④ 目的の達成をふりかえる活動

・企画から準備、実践まで、どの段階でもめあての「男女が協力して活動する」を意識して活動できていたことを賞賛し、学級会ノートにふり返りを書かせた【資料7】。

・ノートに書いたこと紹介し合った。

○ 目的意識を持って活動し、これからの学校生活への意欲を高めることができた。

〇〇さんは、こわがりだと分かりました。おぼけやしきをおして男女がさずなをふかめたと思います。なせなら、男女が一緒に問題をといたり男女が一緒に準備ができたのでさずながアップしたと思います。これから、男女が進んで声かけをすれば、もっときずながアップすると思います。ほくは、進んで女子に声かけをしたいと思います。

【資料7： 実践後、これからも学級づくりに自らかかわっていこうとする子どもの感想】

(3) 実践2の考察

一つの目的に向かって自分達で計画を立てたり活動を考えたり、ルールを工夫したりする姿が見られたのは、参画集団まで高まってきた段階であるといえる。これは、事前・事中・事後のそれぞれの段階で何のために活動をするのかという目的意識をしっかりと持たせたからだと考える。また、一人ひとりに目的意識が芽生えると、「～と一緒に準備しよう」や「昼休みに集まって話合おう」など周りの友達に働きかけていく姿が見られた。このことから、学級づくりに自らかかわる子どもが育ってきたと言える。

9 研究の成果と課題

実践を終えて12月にアンケートを実施したところ、7月のアンケートと比べて下記のような変化が見られた【図5】【図6】。

・学級目標を意識して生活できている。		
◎ 7人	○ 10人	△ 5人
・学級をよりよくするための言動ができている。		
◎ 4人	○ 5人	△ 13人
・めあてを意識して活動できた。		
◎ 2人	○ 4人	△ 16人
◎…とてもそう思う ○…そう思う △…あまりそう思わない×…全くそう思わない		
対象:第5学年2組22名 平成25年7月実施		

・学級目標を意識して生活できているか。	
◎ 18人	○ 4人
・学級をよりよくするための言動ができている。	
◎ 20人	○ 2人
・めあてを意識して活動できた。	
◎ 17人	○ 5人
◎…とてもそう思う ○…そう思う △…あまりそう思わない×…全くそう思わない	
対象:第5学年2組22名 平成25年12月実施	

【図5：7月の話し合い活動後の子どもの実態】

【図6：12月の話し合い活動後の子どもの実態】

(1) 研究の成果

- ①目的意識を持たせる活動 ②目的にそった話し合い活動 ③目的の達成をふり返る活動をしたことは、下記のような子どもの姿が見られ、学級づくりに自らかかわる子どもが育った。
 - ① 目的意識を持たせる活動
 - ・学級目標を意識しながら話し合いのめあてをつくることができる姿。
 - ・話し合いの目的にそって原案をつくることができる姿。
 - ・話し合いの目的にそって自分の意見や考えをつくることができる姿。
 - ② 目的にそった話し合い活動
 - ・自分の考えに自信を持って発表することができる姿。
 - ・話し合いのめあてを意識した発言を積極的にすることができる姿。
 - ・目的にそった集団決定をすることができる姿。
 - ③ 目的の達成をふり返る活動
 - ・自分がこれからも学級づくりにかかわろうとする姿。
 - ・成功したことを互いに賞賛し合うことができる姿。
- 学級活動コーナーで目的が明確になる工夫をしたことは、子ども達一人ひとりが目的意識を持ち主体的な活動をすることにつながった。

(2) 今後の課題

- さらに学級づくりに自らかかわる子どもを育てるための日常活動の充実と学級活動との関連づけ
- 時間内に子ども達が折り合いをつけながら集団決定していくための話し合い活動の積み上げ

〔参考文献〕 ○ 文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別活動編
○ 小郡市・三井郡教育研究所 研究紀要 第24集